

## 早稲田大学 教育学部 化学 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	例年、標準的な問題が多く出題されるが、実験問題が頻出であり注意。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅰ	ケイ素とケイ素を含む化合物	問9の実験に関する論述問題以外は、ケイ素に関する定番問題。	標準
Ⅱ	酵素の反応と反応速度	問5、問6のグラフを選択する問題や、問7、問8の実験結果を考察する論述問題で差がついたと思われる。	標準
Ⅲ	アセチレンの反応	アセチレンに関する平易な問題。問2の空所補充では、「酸素アセチレン炎」を知らなかった受験生は多かっただろう。また、実験の描画問題も出題された。	標準

### 〔総合コメント〕

<p>例年、実験に関する考察や、実験装置の描画問題が多く出題され、本年度も同様の傾向にあった。しかしながら、多くの設問は、標準的な問題、定番問題であるため、確実に得点しておきたい。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------